

園長通信

イメージキャラクター

ふたぶう

高槻双葉幼稚園50周年を記念して誕生しました。幼稚園で子どもたちを見守ってくれています！



2024, 05, 01

園長 岡部 祐輝

新たな環境と向き合う中で・・・

令和6年度の幼稚園生活が始まり、子どもたちも新しい環境で過ごしています。

特に年少クラスの子どもたちは、少しずつ幼稚園生活のリズムや流れになれていく4月の時期を過ごし、先生と遊ぶこと、友達と一緒に過ごすことが、だんだんと日常になってきているように見受けられます。しかし、中には「新たな環境に戸惑い涙を流す姿」や、「どう遊んだらよいかわからず、じっとともだちのあそびをみつめる姿」など、どこかまだ不安げな様子が見受けられるシーンもあります。当園では、まず4月は「**幼稚園では肯定的な経験ができること**」を大切にしています。肯定的な経験とは、「うれしい」、「落ち着く」、「楽しい」、「もっと遊びたい」などの思いです。

子どもたちが好きな遊びを行い、遊びが深まったりつながったりする中で楽しさを感じることも、なかなか思い切り遊ぶことが難しい場合は、だれか/どこか安心する、ほっとする人/場と出会うことを大切に考えています。例えば、以下の写真は、保育者と子どもが絵本を読みながら同じリアクションをしている場面です。同じものを見て、同じ動作をする/表情をするなどの共通した体験を通して、自分が他者とつながっていく感覚が豊かになると考えます。



また以下の写真は、子どもと保育者が一緒に積み木をしている一枚です。結果（ぐらぐらしている/高く積めたなど）を一緒に見えています。特に年少児の初めのころは、「**一人遊び**」、「**平行遊び**」(*Parten, 1943)といわれる、一人でそれぞれがしたい遊びに没頭する姿があります。この時期はまず遊びこむことができる環境が大切です。そのうえで、同じものが好きということなどを保育者が見取り、必要に応じて子どもの思いどうしがつながるきっかけや、つながりたいと思える環境構成を用意する中で、徐々に友だちとつながっていく姿が遊びや生活の中で見られてきます。



縦（異年齢）の子どもどうしのつながり

幼稚園生活の中では、「縦（異年齢）」のつながりもみられます。例えば年長児が朝に年少児の保育室を訪れ、朝の用意を一緒にしたり、不安そうにしている子どもがいれば隣にそっと寄り添って声をかけたり、笑顔いっぱい楽しい時間を一緒に過ごしたり・・・子どもたちの姿をみていると、ただ声をかけているだけではなく、ゆっくり話したり、目線を合わせて話したり、手をぎゅっと握り話したり・・・と、言語でも非言語的な部分でも温かな雰囲気の中で対応をしています。このような姿は、「こうしてあげてね」と教え込むだけでできることではありません。それぞれがこれまでに家庭、園、地域などの生活経験の中で、自分が他者にしてもらい、うれしかった思いが、他の誰かに対して寄り添おうとする子どもたちの姿を支えているのだと考えます。



（そっと後ろからブランコを補助する姿）



（一緒に園庭を歩くときにやさしく手を握る姿）



（帽子の着脱を丁寧に声をかけながら補助する姿）

このように4月は、新たな人、事柄（クラスの仕組み/活動など）、もの（環境）と向き合う中で、経験を通して慣れていく時期になります。子どもたちの姿を見ながら、興味関心を支えるだけではなく、なんだか不安な気持ち、寂しい気持ちなどを園の職員チーム全体で受け止め、5月につなげていきたいと思えます。